

参加したインターンシップについて教えてください

海外に本社を置く半導体製造装置メーカーと、国内の総合電機メーカーのインターンシップに参加しました。

海外メーカーのインターンではオランダの本社を訪れ、製造工程を間近で見学でき、海外メーカーの文化や多様性に触れることができました。一方で国内メーカーは実践に近く、事前に選択したテーマに沿って深く研究させてもらいました。生産技術の向上を目的に加工技術の研究と評価を2週間かけて行いました。

参加してどんなことを感じましたか？

私がインターンに参加した海外メーカーでは約80カ国の人々が働いていたため、多様性の中から良いアイデアを生み出すために、「どれだけディスカッションが重要か」ということを学べました。

研究室に戻ってきてから、海外の研究生とコミュニケーションを取る上でもとても役立ちましたね。



一方、国内メーカーのインターンで学べたのは、学生と社会人との意識の違いです。社会では学生のように「教えてもらって当然」ではなく、自分で考えて提案し、研究の価値をビジネスに変えていく必要があります。インターン中はひとりで数時間、研究を任せられる場面も多々あったのですが、その間にどういう価値のある研究を行っているのか、ロジックを持って説明できるように心がけていました。

インターンシップの選考対策はどのように進めましたか？

初めての経験でしたから、エン

慶應義塾大学大学院 理工学研究科
基礎理工学専攻 修士2年

K.Iさん

参加したインターンシップ

海外半導体製造装置メーカー、国内総合電機メーカー

case

01

先輩体験談

いろいろな企業を見ることで、
やりたいことが見えてくる

は無く、どういった貢献がしたいか、という一歩踏み込んだ意識が持てるようになったのは、今後の就活においても役立つはずだと感じています。

これからインターンシップや就職活動控えている理系学生にアドバイスをお願いします

トリートメントの書き方や面接対策には力を入れました。エントリーシートに関しては、研究室のOBや理系ナビのキャリアアドバイザーの方にも見てもらったおかげで随分と改善できたと思います。まだ就活したことがない自分の視点では、当然経験値は足りませんが、客観的な視点も不十分ですから。エントリーシートに自信が持てなかった企業のインターンはやはり選考で落ちていたので、エントリーシートは絶対に対策すべきポイントだと思います。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

今、私は日系企業への就職を考えているのですが、海外企業と日系企業両方のインターンシップを経験できたことが進路を決める上で大きな要因になりました。

海外と日本、どちらにも長所はあるのですが、両方経験した結果、自分には日本のスタイルの方が合いそうだと思うようになりました。それだけでなく、特に社会人として働く上での意識という点では大きな学びがあり、社会に出てから何が勉強したいか、で

日本の新卒一括採用に対しては、いろいろな評価がありますが、私としては良い制度だと思っています。理系も文系も関係なく、いろんな業界を見ることができると今だけです。インターンに関しても、将来自分が絶対に行かないだろうと思う業種にあえて参加する、という方法もありえますよね。最初の関口は大きく広げて、いろんな業界を見て、最終的に一番やりたいことを見つける、というやり方でもいいはずですよ。

私自身、特にプラントエンジニアリングに興味があるのですが、インターンに参加する前は漠然と「メーカーに行きたい」と考えていたのが、随分明確になりました。いろいろな業界を見たからこそ、やりたいことが見えてきたのだと思います。

参加したインターンシップについて教えてください

私は日本の技術を世界で展開する仕事がしたいと考え、メーカーやIT企業も検討した末にコンサルティングファームに着目し、

アーサー・D・リトル(以下、ADL)のウィンターインターンシップに参加しました。取り組んだのは実在するメーカーの新規事業立案で、数名のチームを組んでデザインセッションを行い、2つの新規事業計画をプレゼンしました。協力的なメンバーにも恵まれ、チーム全員で新しい価値を創造するという経験をできたのは収穫でした。

参加してどんなことを感じましたか？

良かったのは、自分の強みと弱みの両方が見えた点です。私は大学の研究室でも、俯瞰的な視野をもって研究計画を自ら立案し、ディスカッションする経験を積んでいましたから、インターンシップの場でも人の意見を踏まえながら自分の意見を発言でき、議論を客観的に見るという点は得意だと

改めて気づきました。一方、自分が議論の中心になって物事を進めていくようなリーダーシップに関してはまだ足りないと感じました。1人で問題を解決するのではなく、チームで考えて課題解決することの面白さを知れたのは良い体験でした。

さらに自分にとって大きな発見になったのは、コンサルティングという仕事は課題を因数分解するだけの仕事ではないということ。以前は、「コンサルティングはロジックを組んで辻褄が合っていればいい」と考えていました。しかし実際は、その提案によって世の中が良くなるかどうか、そもそも



慶應義塾大学大学院 理工学研究科

総合デザイン工学専攻 修士2年

石井 敦浩さん

参加したインターンシップ

アーサー・D・リトル・ジャパン株式会社、ITベンチャー

case

02

インターン

自分が本当にやりたいことを確信できた

クライアントの企業理念に合致しているかどうかといった点が重要だったのです。インターンでは、因数分解では見えないものを追求する、物事の本質に迫るADLの社員の姿勢に大いに感銘を受けました。とても難しい仕事だと感じましたが、日本の技術を世界で発信する人間になるためには、こうした本質を突き詰める姿勢が大切なのだと思われました。

インターンシップに参加して就職活動に役立ったことは？

「自分が本当にやりたいことを実現できるのは、コンサルティングファームではないか」という考えからADLのインターンシップに参加しましたが、正直なところ、参加前はコンサルタントの仕事については正確に理解できていたわけではありません。ですが、インターンシップを通じて入社前にイメージを掴むことができ、自分の進路に確信を持つことができました。

また、研究室では、コミュニケーションを取る相手は基本的に自分のことを知っている人ばかりですが、外の世界に出ると価値観

がまったく異なる人たちがいます。その中で自分に一体何ができるのか、客観的に考えることは就職活動でも役立つと思います。

これからインターンシップや就職活動を控えている理系学生にアドバイスをお願いします

まずは自分が何をやりたいのかを考え抜くことが大切だと思います。そのためには、いろいろな人に話を聞いたり、インターンやセミナーなどに参加して将来をイメージすることが必要です。私も家族や友人に相談したことで、コンサルタントという職業を知ることができました。私の周りを見ると、やりたいことを見つけられない人も多くいますが、就職活動という機会を活かして見つけてほしいですね。特に理系は専門分野がはっきりしているので進路を限定しがちですが、自分がやりたいことを実現するにはどんな選択肢があるかを知る機会を増やすと良いのではないのでしょうか。